

# 日本電設工業株式会社

## 2026年3月期第2四半期決算説明会 要旨

日 時	2025年11月14日（金） 15:00～15:47
開催場所	みずほインバスター・リレーションズ(株) 10階ホール
会 社 側 出 席 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>・代表取締役社長 安田 一成</li> <li>・代表取締役専務取締役 谷山 雅昭</li> <li>・常務取締役 外川 友司</li> <li>・常務取締役 松井 克彦</li> </ul>
参考資料	<a href="#">2026年3月期第2四半期決算説明会</a>

### ・決算概要説明 （社長 安田 一成）

### ・質疑応答

自己資本比率・政策保有株式について

質問	<p>自己株取得や株価・資本コストを意識した経営を継続しているとのことであったが、中間期で自己資本比率が70%半ばとなっている。この水準について、今後どのように考えているのか。例えば50%や55%など、中長期的な目標はあるのか。</p> <p>また、投資有価証券には政策保有株も含まれるが、期末に比べ売却は進めつつも増加しているように見える。株高の中で増えているとも考えられるが、売却のスピードをさらに上げる考えはあるのか。</p> <p>特に、東鉄工業、日本リーテック、第一建設工業など、JR東日本の資本が入っている企業との持ち合いについて、今後どうするのか。</p>
回答	<p>自己資本比率は高水準と認識、引き下げ方向で進める方針。ただし、具体的な数値目標は設定していない。政策保有株式の売却などを進め、自己資本比率を下げつつ、資本効率を上げることを重視。</p> <p>政策保有株式は銘柄70%縮減の目標を着実に進める。東鉄工業、日本リーテック、第一建設工業も除外せず縮減を進める。売却の優先順位は社内決定のうえ進める。</p>
更問	<p>業界として人手不足というものもあるが、親しい関係にある東鉄工業、日本リーテック、第一建設工業との事業におけるコラボレーションの可能性はあるのか。</p>
回答	<p>同業である日本リーテックとは施工の機械化などで協力している。東鉄工業、第一建設工業とは建築・土木分野で協業している。政策保有株式の有無に関わらず協力関係は継続。</p>

## 収益性の改善について

質問	収益性について、 鉄道電気工事：コロナ前の水準に戻っていないとのことであったが、問題意識と改善策は。 一般電気工事：改善傾向だが、競合他社に比べると物足りない印象。 価格交渉や利益確保の取り組みは。
回答	鉄道電気工事：利益率は不十分。世の中の労務単価の上昇には追いついていない。ＪＲ東日本との単価交渉を継続し、労務費上昇に対応。また、固定費増加が要因。工事指揮者・線閉責任者制度により当社社員の配置が増え、人件費が上昇。ベースアップの影響もあり。 一般電気工事：競合に比べ改善余地あり。ＪＲ案件も一定の利益率は確保しているが、全体的に更なる改善が必要。また、物価・労務費が高止まりしている影響。リニューアル工事では高い利益率を確保。顧客への価格交渉を継続中だが、説明不足の課題も認識。

## Suica 関連工事について

質問	ＪＲ東日本の Suica アップグレード時に大型工事の受注見込みはあるか。
回答	Suica のシステム改修は当社対象外。ただしネットワーク更新工事は継続して受注しており、一定の売上を見込んでいる。

## ＪＲ東日本との資本関係について

質問	ＪＲ東日本が 2025 年 2 月に、約 10 年前の貴社株式に関する大量保有報告書を訂正した。これは、今後の貴社との関係性に変化がある兆しと考えてよいのか。協力関係のもと長らく 20% 未満を維持しているが、株式保有比率に対する貴社の考えは。
回答	今回の訂正は、過去の報告内容の修正に過ぎない。ＪＲ東日本から追加取得の意向はなく、現状維持を想定している。

以 上